

西諸県地域の普及活動

令和6年5月

西諸県農林振興局

(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 小林市で農業経営改善計画・青年等就農計画の認定審査会が開催

27日、小林市役所にて認定農業者の農業経営改善計画認定審査会が開催され、更新11件（肉用牛繁殖5件、養鶏1件、露地野菜3件、施設野菜1件、施設果樹1件）の審査があり、全て承認されました。

また、認定新規就農者の青年等就農計画認定審査会では1件（施設野菜）の審査があり、承認されました。

2) 西諸県農業改良普及事業推進協議会の総会を開催

20日、普及センターにおいて普及事業推進協議会総会を開催しました。各市町、関係団体の首長、組合長等が出席し、昨年度の実績及び今年度の事業計画案について検討を行いました。

普及センターからは令和5年度普及指導活動実績及び令和6年度の計画について説明を行い、委員からは県内の輸出状況に関する質問などが出されました。



【実績や計画への質問をする出席者】

3) 令和6年度第23回きりしま農業推進機構通常総会の開催

23日、JAこばやしにて委員24名参加のもと総会が開催され、提案された全ての議案が承認されました。

今回の総会では、農業協同組合合併による名称変更等に関する規則の一部改正案があり、承認されました。

今年度も、関係機関が一体となり、農業者の経営改善や担い手の育成・確保に取り組んで行く予定です。



【総会で情勢報告を行う林田局長】



【総会の様子】

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし」、JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市」と表記しています。

4) えびの市で二条大麦収穫前検討会が開催

1日、えびの市役所にて二条大麦収穫前検討会が開催されました。

市内の大麦生産者3戸と実需者である酒造会社、関係機関が参集し、令和6年産の大麦生育状況や今後の計画について意見交換を行いました。

今年度は、3月～4月の悪天候により赤カビ病の発病が心配されましたが、3戸の生産者は農薬による2回防除を徹底したことにより、カビ毒汚染の予防・低減を図ることが出来ました。

今後は適期収穫による良質な二条大麦の生産が期待されます。



【検討会の様子】

5) 5月期子牛郡品評会が開催

7日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和6年5月期子牛郡品評会が開催されました。

5月期子牛セリ市に出品される雌子牛のうち、市町の子牛品評会を経た40頭の出品があり、審査の結果、優等賞に6頭、尨等賞に15頭、弍等賞に19頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市野尻町のS氏出品の「ひなじょ170」号（耕富士－美徳国－勝平正）、2席は高原町のU氏出品の「ふたば233」号（耕富士－美徳国－勝平正）、3席は高原町のY氏出品の「ろおるぱんな」号（二刀流－忠国桜－美徳国）が受賞されました。

受賞牛は発育良好で高さ、長さ、幅に優れ、胸のしまりも良い牛であるとの講評でした。



【優等賞首席 ひなじょ170号】

6) 西諸県地区茶業振興協議会の一番茶反省会を開催

23日に、西諸県地区茶業振興協議会の一番茶反省会が小林市内で開催され、会員13名と関係機関7名が出席しました。

会では、一番茶の実績や今年度の協議会活動について協議されました。一番茶の実績は数量や金額が前年を上回り、良好な結果となりました。

7) えびの市で畑地かんがい事業推進協議会の総会が開催

29日、えびの市役所にてえびの市畑地かんがい事業推進協議会の総会が開催されました。普及センターからは、令和5年度の畑かん営農に関する情報提供を行いました。

先月から開催された各市町等の畑かん関連協議会総会は全て終了し、令和6年度の活動が本格的に始まりました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携して、畑かんを活用した営農振興を進めてまいります。



【畑かん営農に関する情報提供】

8) 岩瀬園芸組合定期総会

10日、小林市岩瀬園芸組合の定期総会が開催されました。総会後には意見交換会も開催され、メロンをはじめ、ピーマンやトマトなど様々な品目の生産者および市場、JAとの交流を行いました。

歴史のある組合なので、引き続き産地を維持できるよう関係機関と連携しながら支援を行っていきます。

9) 母の日に管内の花が販売されました

9～10日に、西諸県管内で生産されているカーネーションを用いたアレンジメントフラワーの注文販売を小林市と農林振興局で行いました。

西諸県管内の鉢苗生産者が栽培したカーネーションが、母の日用にラッピングされて販売されています。カーネーションは様々な品種（色）があり、自分用や日頃の感謝を伝えるための贈り物としてそれぞれの好みの色を購入していました。



【カーネーションの販売】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談を実施

2日、9日、15日、28日、小林市で就農を希望する2名の就農相談会を行いました。

1名はトレーニングセンターの研修生で、施設きゅうりでの就農希望者です。地域内の空き施設や年間労働力の状況から、新たにピーマンの作付けを追加した就農計画の作成を進め、6月の審査会で認定新規就農者の認定見込みとなっています。

また、もう1名の露地野菜での就農希望者に対しては、3回目の相談会を行い、相談者自身が作成した作付計画表等をもとに収益性についての検討しました。各支援策の活用検討や収支計画の見直しを行い、7月の認定新規就農者の認定を目指して関係機関と連携し、支援を継続していきます。

22日、えびの市でタケノコ等での就農希望者に対して3回目の相談会を行いました。就農計画の確認が進められ、今後、収支計画の精査により、認定新規就農者の認定を取得する予定となっています。

※就農相談対応（面談）等 3名

(内訳：小林市：施設きゅうり等1名、露地野菜1名 えびの市：タケノコ等1名)

2) 令和6年度にしもろサップ交流会を開催

22日、小林市内において、SAP会員15名、農業経営指導士や関係機関、普及センター職員など16名の参加のもと、令和6年度にしもろサップ交流会が開催しました。

交流会は、総会や7月17～18日に宮崎県で行われる九州・沖縄地区青年農業者会議の県代表として出場する会員のプロジェクト発表の練習会も兼ねて行われました。

それぞれの立場の垣根を越えた積極的な意見交換が 【プロジェクト発表の練習を行う会員】
行われ、今後のSAP活動や参加者の取組に活かされていくことが期待されます。



(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) えびの市で畦畔除草剤試験の実施

29日に、えびの市で畦畔除草剤展示ほの2回目の散布を実施しました。

この畦畔除草剤試験は夏場の草刈り回数を削減するための省力化技術となっており、今回の展示ほは約300㎡の畦畔に薬剤散布を行いました。

えびの市は2年目の試験となっており、除草効果に加え、連年使用した際の影響等も見ていきます。



【2日後(5/31)の状況】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 畑地の排水性改善に向けた展示ほを設置

21日に、高原町祓川の農業生産法人ほ場に設置した展示ほにおいて、畑地の排水性改善に向けた緑肥の播種作業を行いました。

西諸県地区では、畑作の経営規模拡大等が図られる中で、持続的な安定生産が課題となっています。今回、農業土木技術と緑肥を用いた耕種技術の組み合わせによる排水不良対策の展示ほを設置しました。

播種後には、台風1号の影響による大雨がありましたが、播種した4種類の緑肥は無事に出芽しており、今後は各種調査等を行う計画です。



【排水性改善展示ほの状況】

2) 西諸県東部農地集約分科会（西諸県地域の露地野菜の振興に向けた意見交換会）を開催

16日に西諸県東部（小林市岩瀬、堤、三松、野尻町及び高原町）地区で露地野菜の営農を行う4法人が参集し、農地集約分科会を開催しました。

巨大マップ上を各法人、関係機関が歩きながら意見交換を実施した結果、7箇所のは場で農地集約の可能性を見いだすことが出来ました。

各法人同士の繋がりを深めることで、互いの利益、地域経済へ良いサイクルが生まれると感じられました。

秋には西諸県西部の同分科会の開催を計画しています。



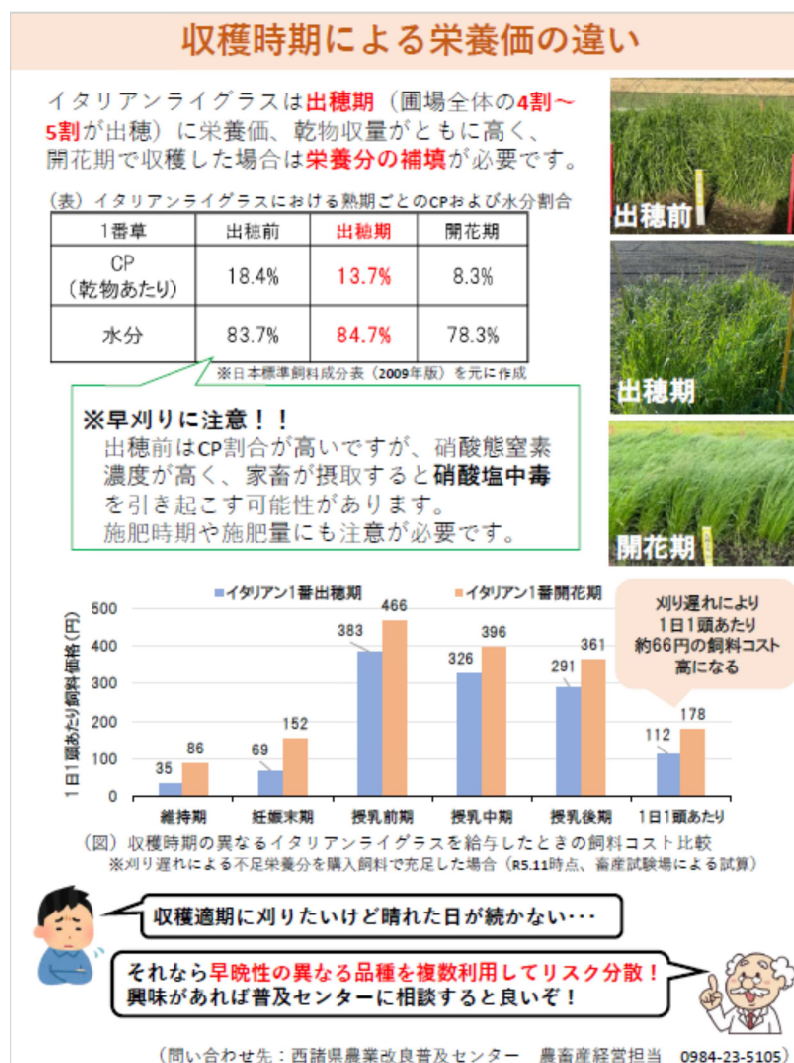
【農地集約の検討状況】

（魅力的な子牛産地を支える実力ある肉用牛繁殖経営の確立）

1) セリ時のポスター掲示による啓発

肉用牛繁殖経営における飼料作物の重要性について啓発を行うため、家畜セリ市場にポスター掲示を行いました。内容は、イタリアンライグラスの収穫時期による栄養価の違いです。

今後は、掲示内容を変更し、基本的技術の紹介を行い、繁殖経営の管理技術の向上を目指していきます。



(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAこばやしきゅうり部会の促成きゅうり反省会

23日、JAこばやしきゅうり部会を対象とした促成きゅうり反省会が開催されました。

普及センターからは、今作中に実施した生育調査の結果とハウス内環境データを分析した資料をもとに、今作の栽培管理の振り返りを行いました。また、今年の4月は日射不足により栽培が難しい月となったため、日射量に合わせた肥培管理の考え方について説明を行いました。



【促成きゅうり反省会】

来作に向けて、今作の管理の反省点をまとめるとともに、巡回の中で生産者への情報提供を行っていきます。

2) えびの市いちご団地講習会（第2回）

31日、えびの市のいちご団地において、研修生2名及び団地入植者3名を対象とした講習会が開催されました。

普及センターからは、①栽培終了後の片付けについて、②肥料について、③苗管理についての3項目の説明を行いました。また、ほ場に出て育苗状況を確認しました。

受講者からは、育苗における水管理や資材、病気の見極めなどについて積極的に質問をしていただきました。引き続き、講習会以外でもこまめな巡回を実施し、支援を行っていきます。

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 小林市果樹農業振興推進対策協議会 梨ブドウ管理講習会

8日、小林市内の園地にて梨ブドウ管理講習会が開催され、生産者30名程度、関係機関3名が参加しました。普及センターからはなし・ぶどうの当面の管理、病虫害・生理障害、昨年の試験結果、新規薬剤、新品種について説明しました。また、メーカーによる自動草刈り機やアシストスーツによる実演を行ったところ、生産者は興味津々であり、多くの質問がありました。

これからも、なし・ぶどうの大事な管理時期が続くため、個別巡回にて指導を行います。



【アシストスーツの実演】



【講習会の様子】

2) JAこばやし梨・ぶどう部会 先進地視察

24日に、生産者4名、関係機関2名で、福岡県大牟田市の2戸のほ場を視察しました。視察先では、ぶどうの根域制限栽培や省力的な摘粒方法、新しい品種について意見交換を行いました。

今後は、今回の研修を生産者が活かせるような支援を関係機関とともに行っていきます。



【ぶどうの根域制限】



【ぶどうを見る様子】

3) シャインマスカット 未開花に関する聞き取り

5月に、JAこばやし担当者とシャインマスカットの未開花症の発生状況を聞き取り調査を行いました。現時点では2件の発生が見られますが、大々的な発生は見られませんでした。発生園地については摘粒・摘房で調整するよう指導を行いました。

今後も支援を関係機関とともに行っていきます。



【シャインマスカットの未開花症】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) えびの市内のキイチゴ「ベビーハンズ」、ランタンキュラス、及びユーカリの巡回支援

8日及び29日に、JAえびの市の営農指導員とともに、えびの市管内のキイチゴ、ランタンキュラス、及びユーカリ生産者の巡回支援を実施しました。

天候が回復したことにより、順調に生育したほ場では出荷が始まっています。しかし、晴れ間が少なく、夜温が高く推移し、べと病や水焼けなどが発生しているため、JA職員とともに生産者に対し防除や葉面散布の呼びかけを行っています。

引き続きJA職員と連携しながら、高品質で安定したキイチゴ生産を支援していきます。



【ランタンキュラス球根生産の状況】

2) ラナンキュラス先進地視察研修で球根作りの意見交換

16日に、西諸県管内ラナンキュラス生産者4名、関係機関3名で、高千穂地区花き園芸振興会ラナンキュラス部会の2戸のハウスを視察させていただきました。

昨年11月に定植時の視察を行い、株作りについて学んだところですが、今回は球根養成時から球根の掘り上げについて学び、優良な球根作りについて意見交換を行いました。

管内の生産者は、西臼杵の球根作りを学びたいとの意欲が強く、積極的に情報収集させていただきました。

西諸県と西臼杵では、気候や土壌条件なども異なり、同じような休眠の仕方ではありませんが、管内でも活かせる技術を学ぶことができましたと思います。

今後は、今回の研修を生産者が活かせるような支援を関係機関とともに行っていきます。



【西臼杵地域のほ場内の視察】

3) ラナンキュラスの掘り上げ実態調査

西諸県管内生産者の球根掘り上げ状況を把握するため、巡回を行いました。長雨や曇天が続く天候で土壌が湿った状態が長かったですが、全体的に例年と同じタイミングで枯れ上がり、早いところでは4月下旬から掘り上げが開始されました。

今年は、西臼杵からの学びから球根養成時期以前から液肥散布を実施しておらず、例年に比べ球根が小ぶりで分球しやすい状態となっています。そのため、乾燥も十分にできているように感じられます。

今回掘り上げた球根の状態については、9月からの吸水処理以降の生育を観察して様子を見ていきたいと思っています。



【掘り上げたラナンキュラス球根】

4) 高原町花卉部会の定例巡回及び定例会、総会が開催

30日に、高原町管内において、生産者5名、関係機関4名が参加し、管内3名の生産者のキクほ場巡回、定例会、総会が開催されました。

令和5年度は、コロナの5類移行により定例巡回や家族研修会などの活動が活発でした。

今年度も昨年同様に活発な活動が計画されていますので、引き続き支援していきます。



【高原町花卉部会定例会】

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) 西諸県地区女性農業者サポート協議会総会及び研修会を開催

17日、普及センターにて、西諸県地区女性農業者サポート協議会委員26名中25名(委任状9名含む)の出席と関係機関など11名が参集し、総会及び研修会を開催しました。

総会では、実績、計画、役員改選など全ての議案が承認されました。

また、総会に引き続き、当協議会の令和5年度の会長でもある高原町で原木椎茸を生産するH前会長により「世代を繋ぐ!! “本物を正直に世界へ発信”」と題して研修会を開催しました。現在行われている原木椎茸のフランスでの販売促進活動、そこに至るまでの人とのつながりにより生産物の価値が認められていった過程の話、さらには、産地が抱える後継者確保への想いについて講演されました。同じ組織のメンバーにとっても、初めて知ることばかりだった様子で、参加した会員からも多数の質問があり、取組のみならず原木椎茸そのものに対しても高い関心が寄せられたところです。



【総会で挨拶をする小岩崎所長】



【海外での販促に至るまでを講演する会長】

2) えびの市で水田省力化技術研修会を開催

13日、JAえびの市において、えびの市の水稻生産者グループを対象とした水田省力化技術研修会を開催しました。

12名の生産者が参加し、水田の除草やジャンボタニシの対策、センチピートグラスによる畦畔雑草対策、乾田直播栽培についての研修を行ったところ、研修会後にも質問があるなど高い関心が伺われたところです。



【乾田直播栽培の説明】

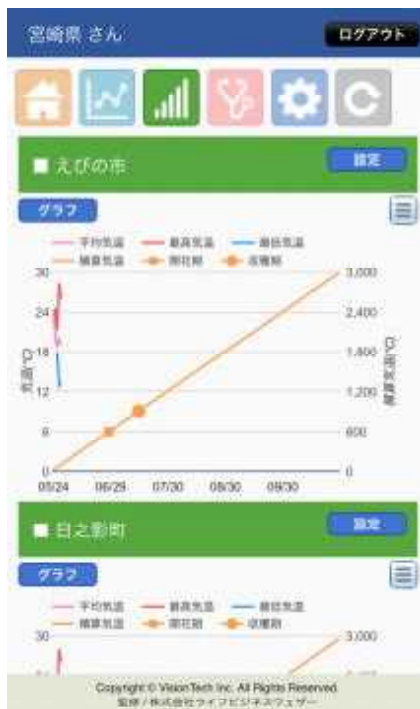
3) くり 農地環境推定システムの設置

30日に、総合農業試験場果樹部の担当2名とえびの市のくり園地に農地環境推定システムの設置を行いました。設置は1時間程度で完了し、データも確認できました。くりでは収穫始期の事前予測、低温や高温遭遇の事前予報が期待されます。

今後は、データ収集と合わせてくりの生育観測も行います。



【設置の様子】



【収集したデータ】

4) えびの市でりんどう現地検討会が開催

24日に、えびの市管内のりんどうほ場及びJAえびの市にて、県全域のりんどう現地検討会が開催されました。

えびの市管内のりんどうのほ場は、総合農業試験場が選抜したナチュラルブルー（耐暑性りんどう）の現地試験ほ場となり、調査されていました。ナチュラルブルーは今年から西諸県以外の中山間地域でも展示ほが設置されることになったため、えびの市で情報交換が行われたところです。

今後は、総合農試花き部やJA、県内の産地、市場等と情報共有しながら、ナチュラルブルーの生産性について検討していく予定です。



【りんどう現地検討会の室内検討】